

1 コシヒカリの生育状況

表 コシヒカリの生育状況(アルプス米標準田平均 7/3 調査)

	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	幼穂 形成 期
		本/株	本/m ²			
本年 (5/13 植)	56.8	25.9	531	11.2	4.2	(7/13)
昨年	66.5	23.5	476	11.4	4.1	7/10
平年	64.2	24.3	465	11.4	4.1	7/11

※平年値はアルプス米標準田 H19～28 の平均値

※今年の幼穂形成期は推定値

現在の生育状況は、平年と比べ、草丈は短く、m²当たり茎数は多くなっています。

また、葉齢の展開は、やや遅く、幼穂形成期は、平年より2日程度遅い「7月13日頃」(5月13日頃の田植え)と予想されます。

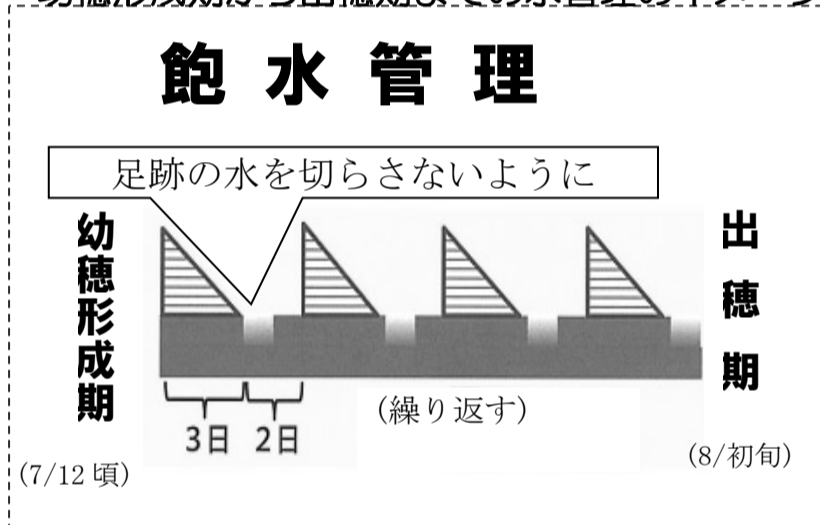
2 出穂期までの水管理 ～幼穂形成期以降は飽水管理を実施～

幼穂形成期から出穂期までは『飽水管理』を行い、葉色の急激な低下を防ぎましょう。

○飽水管理：3cm程度入水→自然減水(足跡に水が残っている状態)→入水を繰り返す。

(×間断かん水：1日湛水→3日間程度落水(足跡に水がなくなる)→入水)

幼穂形成期から出穂期までの水管理のイメージ図



「間断かん水」にならないように

飽水管理の注意点

- 4日以上湛水状態が続く圃場では強制落水しましょう。
- フェーンが予想される場合は、水不足にならないよう、あらかじめ入水しましょう。
- 下流域まで十分に水が行き渡るよう、**かけ流しを止め**地域での計画的な用水の利用に努めましょう。

3 コシヒカリの穂肥(分施肥系) ～1回目の穂肥施用時には、幼穂長と生育量を確認～

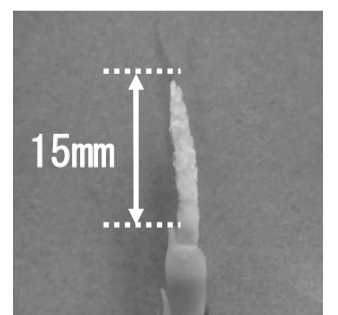
穂肥の施用にあたっては、圃場の生育状況と幼穂の長さを必ず確認し、

「**1回目は慎重**」に、「**2回目は确实**」に行いましょう。

○生育量別穂肥の目安(穂肥は、BB穂肥35号を施用)

1回目穂肥施用時の生育量と施用量 (幼穂長 15mm)					2回目穂肥	
生育量	草丈	葉色	施用時期	10a 当たり 施用量	施用時期	10a 当たり 施用量
適正	82cm 以下	3.6	7/19頃	10kg	1回目穂肥 の7日後	10～13kg (砂壤土 13kg)
やや過剰	82～87cm	3.8程度	7/20～22頃	7kg 以内		10kg
過剰	87cm 以上	4.0以上	施用しない		出穂7日前 (7/26頃)	7～10kg

1回目穂肥時の幼穂の様子



4 てんこもりの穂肥

分施肥系の方は、営農センター又は農林振興センターまでご相談ください。

適期作業看板設置中

JAアルプスでは昨年に引き続き「適期作業看板」を設置し、基本技術の励行指導を行っています。この看板は、適宜取り替えて掲示していますので、適期作業の参考としてご活用ください。



5 てんたかくの基本防除 ～3回の適期防除で斑点米を撲滅！～

「てんたかく」の格下げの主要因は、例年「カメムシ類による斑点米」となっています。

3回の基本防除を徹底し、斑点米の被害を防止しましょう。

(1) 管内のカメムシ発生状況（雑草地・畦畔等）

6月下旬に管内の雑草地や畦畔等ですくいとり調査を行った結果、今年もカメムシ類の確認地点率は高く、1地点当たりの捕獲頭数も多い状況でした。

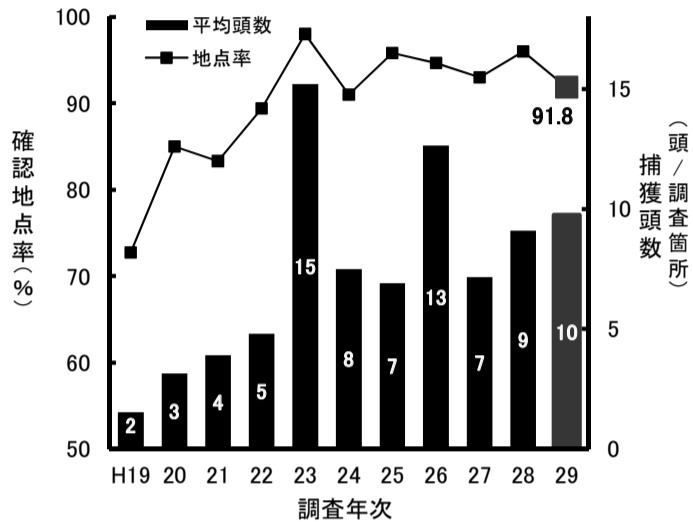
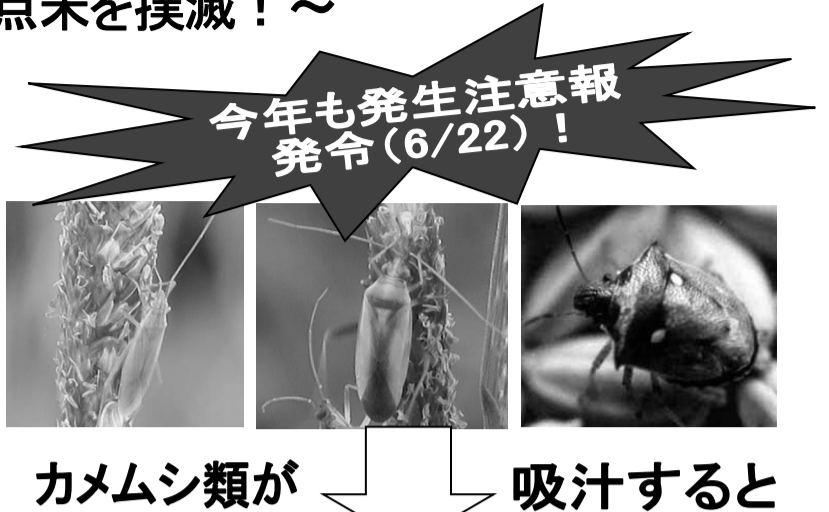


図 斑点米カメムシ類の確認地点率と平均頭数
(畦畔・雑草地 6月下旬 調査カ所数 50カ所)

「防除時期の遅れ」、「防除間隔が長くなった」等、防除時期のずれが斑点米の発生につながります (H28 聞き取り調査結果より)。

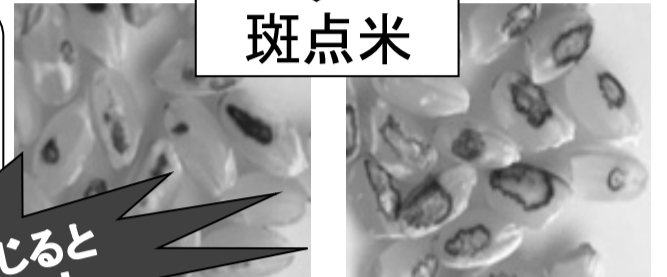
1,000粒に2粒混じると1等になりません！

適期防除の徹底で、消費者が求める、「高品質なてんたかく」に仕上げましょう！



カメムシ類が 吸汁すると

斑点米



(2) 防除時期のめやす (5月上旬田植え、幼穂形成期7/1頃、出穂期予想7/24頃の場合)

防除時期	出穂始め(穂が2～3割見られたら)	穂揃期	傾穂期
	7月20～22日頃	7月27～29日頃	8月3～5日頃
粉剤	バリダジョーカー粉剤 DL 4kg/10a(収穫14日前まで)	ラブサイドキラップ粉剤 DL 4kg/10a(収穫14日前まで)	スタークル粉剤 DL 3kg/10a(収穫7日前まで)
液剤	バリダシン液剤5 1,000倍(収穫14日前まで) + MR. ジョーカーEW 2,000倍(収穫14日前まで)	ラブサイドフロアブル 1,000倍(収穫7日前まで) + キラップフロアブル 1,000倍(収穫14日前まで)	スタークル液剤 10 1,000倍(収穫7日前まで)
	散布量: 150ℓ/10a	散布量: 150ℓ/10a	散布量: 150ℓ/10a
対象 病害虫	紋枯病、カメムシ類、 ウンカ類、ツマグロヨコバイ	いもち病、カメムシ類、 ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ

※田植時期等によって生育差があるため、防除時期は生育状況を確認して決めましょう。

※薬剤は決められた量や濃度を守り、畦畔や株元にも十分かかるように散布しましょう。

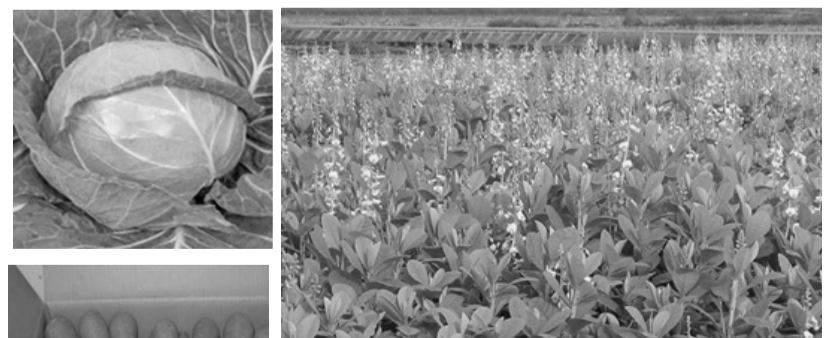
※防除間隔は7日を基本とし、10日以上あけないようにしましょう。

※農薬散布の際は、周辺の野菜等他作物や住宅地への飛散防止に努めましょう。

6 大麦あと圃場・不作付地の有効活用

大麦あと圃場等をそのまま放置すると雑草が繁茂し、カメムシ類の増殖源になります。下記の対応により、カメムシ類の繁殖を抑え、斑点米の発生を防止しましょう。

- ①野菜やそばなど収益性のある作物を作付けする。
- ②地力増進作物(クロタラリア等)を作付けする。
- ③圃場を耕起する等、雑草が繁茂しないように管理する。



<クロタラリア>

すみががなくなったよう...

栽培履歴の記帳と農業生産工程管理(GAP)のチェックは忘れずに！